

11月風土会
構成的エンカウンター（S G E）の授業

- エンカウンターとはホンネを表現し合い、それを互いに認め合う体験のこと。この体験が、自分や他者への気づきを深めさせ、仲間と共に生活する喜びや力強く歩む勇気をもたらすもの。
- 構成的グループエンカウンターとは、リーダーの支持した課題をグループで行い、そのときの気持ちを率直に語り合うこと。この「心と心のキャッチボール」を通して、徐々にエンカウンター体験を深めていくもの。
- エクササイズは、自己理解、他者理解、自己受容、感受性の促進、自己主張、信頼体験の6つ。
- ビジョン（右に流れるように）

集団	よそよそしいギク シャクした集団	S G	落ち着いて、ほど よい緊張感がある 集団	S G	協力的で、目的意識 のある集団
個人	防衛的で、孤独な 個人	E	リラックスした個 人	E	自己開示できる個人

- 特活、人権、異学年交流、保護者
- 展開例

活動内容	留意点
<p>1 オリエンテーション</p> <p>グループ交流の意味を説明して、本時のねらいをもたせる。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">認め合うことで、人は成長する</div>	<p>○リーダーが話すときは、よく聴いて活動すること。質問は挙手などのルールを意識させる。</p>
<p>2 エクササイズ</p> <p>(1) 誕生日チェーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンバーバルコミュニケーションで誕生日の順番に円状に並ぶ。 <p>(2) グルーピング、自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6～8人組になり、簡単に自己紹介をする。 <p>(3) 「あなたはどっち？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートをみて、自分が選んだものと選んだ理由を簡単に語り合う。 	<p>○「話さない」というルールをしっかり守るように伝える。</p> <p>※ノンバーバルなものをすると、かかわる際の抵抗感が少ない。</p> <p>○例えば、異学年でグループになる、好きな季節と好きな色と名前を自己紹介のお題にする。</p> <p>○リーダーがデモンストレーションをしてみせて、活動が円滑に行われるようにする。</p> <p>○深刻にならずに「今ここで」どちらを</p>

<p>(4) シェアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動をふり返って、感じたことや気づいたことを各グループで話し合う。 <p>(5) 「選ぶなら誰？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを見て、ボランティアに応募してきた人たちの中から2人選ぶ。 <p>(6) シェアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの後全体でもシェアリングする。 <p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りシートに記入する。 	<p>選ぶかを語るように伝える。</p> <p>○話をする人は自由に話し、聴く人は批判などをせず、うなずいて聴くように伝える。</p> <p>○ワークシートに自分の考えを書かせる。</p> <p>○グループの人に発表するときはみんなが自分の考えがわかるように話すように指示をだす。</p> <p>※ここまでのグループの支持的風土を認識させる。</p> <p>○グループの代表者発表しやすいような支持的雰囲気をつくる。(拍手など)</p> <p>○ふり返りやすいようにリーダーが活動の一つずつ確認する。</p>
<p>【例】いくつかのエクササイズをすることで、価値感の違いが実感できたのではないのでしょうか。例えば、同じ花を見ても、きれいだと思う人、赤いなと思う人、家に植えたいなと思う人、はかないと思う人いろいろです。この人は自分の考えと違うからけしからんではなくて、そういう考え方もあるのかと認めてあげられることが大切だと思います。この認め合いが、議論や対話、意見のぶつかり合いができるのであって、それがないと何も生まれません。(自分の考えを広げたり深めたりすることにつながる。授業中でも同じ)今日はみんなどう感じたかな。この出会いを大切にすることとは、お互い認め合うことから始まるのです。</p>	

※ 即効性はないが、様々な場面で効果的に働くことを期待するだけ。例えば、授業での交流場面、発表場面、リーダーを決めるとき、目標を決めるとき、行事や式などで全体に伝える場面、「立志式」などの主張場面、また、これは守って欲しいという生徒指導の場面で効果的に作用する。SGEは育てたい力を効率よく向上させ、その成果となる姿がいろいろな場面で役立っていることに教師は注意を払うだけでよい。

「クロスロードゲーム」(Yes, Noの立場をはっきりさせて、自分の考えをみなに伝える。オープンエンドでよい。)の学校ネタを考えてみよう。